

令和4年度 学校評価 北小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	教育目標 未来に向かって、一人ひとりが輝く北っ子の育成 ～ 考え動き 人とつながり 挑戦し続ける子 ～
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業と考え動く特別支援活動の充実を図ります ○児童との絆づくり・居場所づくりを進め、安全・安心な学校を推進します ○地域と協働し、地域も学校も元気になる取組を推進します

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	兵庫型学習システム	多くの教師による多面的な理解に基づく指導や複数学年を見通した系統的な指導を行い、どの児童も意欲的に学習に取り組める支援を進める。	B	4～6年生の教科担任制の導入について、児童と保護者から肯定的な評価を得ることができた。多くの教師で複数学年の児童の様子を共通理解することができ、学習面だけでなく生活面の支援にもつなげることができた。さらに、児童の実態に合わせた系統的な指導を推進し、学習への意欲を高めていきたい。
	地域住民との連携	「地域とともにある学校作り」を目指して、学校運営協議会をもとに地域の思いを汲んで、学校の教育活動への積極的な参加を促進していく。	B	各学年や学校行事等での教育活動にとどまらず、自治振興会と協働した地域行事への参加を進めることができた。熟議を行い、地域の方々の思いを聞いたことも成果である。今後は事業内容の見直しや、あらたな教育活動への参画を進めながら、より一層、地域とともにある学校作りを進めたい。加えて保護者へ活動の認知を深める手だてを取る必要がある。
教育課程	指導方法の工夫改善	児童の学びを深める対話的な授業を実践する。また、従来の教師主導の一斉授業にとどまらず、児童が自ら課題を解決する授業をおこない、主体性を育む。	B	児童は自然に対話している。友達の意見と比べて、良いところを見つけたり、仲間分けをしたりすることもできてきている。さらに、児童の学びを深めるため、教師の発問の質を高める研修を続けていく。また、児童が自ら課題を解決する授業については、啓発を行い、各学級で実践をしているところである。児童は見通しを持ち、自主的に学習に臨む姿が見られるようになってきた。今後も、実践交流や授業参観を行い、指導の工夫改善を図る。
課題教育	特別活動	縦割り遊びや縦割り班掃除等、縦割り班活動を活発におこない、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。	A	伝統の縦割り班遊びに加え、今年度は、新たに縦割り班掃除を実施することができた。縦割り班掃除では、高学年のリーダーシップが発揮され、下級生にも良い影響を与えている。企画・運営と縦割り班対抗で協力しておこなうことで集団への帰属感が高まり、つながりをより深めることができた。今年度も自主的・自治的な活動を推進し、児童の自己有用感を高めることができたので、継続していきたい。今後は、月目標やその都度課題となった事などにも、児童の意見が反映できるように支援していきたい。
	健康教育	学習に向かうことができる体づくりをするために、学校生活の中で体幹を鍛える取り組みを行う。各学級の指導に加え、児童同士が高めあえるような仕掛けをしていく。	B	授業はじめの号令の際、集中力を高め、良い姿勢を保つために「やわジャン・ジワッとシット」を行った。また体育の準備運動中の体幹トレーニングも習慣化している。今年度は、保健委員による各学年のヤワジャン・ジワッとシットの強化を行い、その後選手権を企画した。低学年では良い姿勢を心がける意識付けをすることができ姿勢改善がみられた。今後も日常の中で体づくりを継続していくために、定期的な啓発を行っていきたい。

3 学校関係者評価

【兵庫型学習システム】

教科担任制の導入は、複数の目で子どもたちを見ることができ、中学校へもつながるので、良い取組だと思う。しかし、先生が替わるよりも、一人の先生に教えて欲しい子もいると思うので、先生同士の打ち合わせも大事にして欲しい。

子どもの見方も先生たちで共有することが必要である。

【地域住民との連携】

地域とのつながりを大事にし、大変よく取り組んでいる。

たくさんの機会をもらって、子どもたちと関わってきた。地域の者が、学校に入り子どもたちと一緒に学習でき、私たちも新しい発見や子どもたちとのつながりがあり、日々学ばせてもらっている。

焼き芋大会では、「おいちゃん、半分どうぞ」と分けてくれた子もいて、子どもたちの優しさを感じた。これからも、地域の一員として、学校の子どもたちと関わっていききたいと思う。

【指導方法の工夫改善】

1時間の授業の組み立てを見せてもらい、今の先生たちは、あらゆる子どもたちに対応し、上手に指導されている。

相手になって欲しいから、手を出したり、こっちを向いて欲しいから大きな声を出したりする子もいるが、先生の対応が穏やかに声を掛け、こちらを向かせていることが素晴らしいといつも感心している。

指導方法をまとめ、上手な先生のノウハウを残していくことで、先生たちも指導力が上がるのではないかと。

たてわり活動では、高学年に負担が行くのではないかと心配するが、高学年は、負担に思わず、それを満足感に変えていっているような気がする。

【特別活動】

学校行事を見せてもらったが、どの行事でも精いっぱい取り組み、がんばっている姿を見た。特に高学年は、リーダーとして低学年の見本となり、一生懸命力を発揮している姿に感動した。自主的・主体的な子どもたちの力が育っている。

【健康教育】

今まで、「じわっとシット」や「やわじゃん」の意味を知らなかった。今日説明してもらい、体幹づくりとつながっていることや体幹が大事であることを知った。また、学力とも関連していることもなるほどと思った。

体幹づくりはとても大切なので、これからも継続して取り組んで欲しい。

どの取組も、大事な取組であり、丁寧に指導していただいている。学校は、B評定をしているが、子どもたちの成長や行事の様子を見る中で、すべてA評価でもよいぐらいである。今後も、北小学校が子どもたちや保護者、地域にとって、より素晴らしい学校となっていくように見守らせていただきたい。

4 次年度の改善の方向性

来年度に向けて、今年度の取組を継続し、北小学校の子どもたちの安全・安心を優先課題とし、わくわくするような活動を展開する中で、自己肯定感や自己有用感の醸成や未来に向けてたくましく生きる子の育成、活力ある学校にしていきたい。

今年度、地域も学校も元気になる取組を進めてきたが、コロナ禍の中、思うように進まなかったところもあった。しかし、職員がチームとなり、最善を尽くして取り組んできたことが、地域や保護者の方々に伝わっていることが分かり、何よりも良かった。今後も子どもたちの可能性を様々な場や機会に発揮できるように、チーム力を高め、保護者、地域の方々と協力して取り組んでいきたい。

令和5年3月1日

学校名 丹波市立北小学校

校長名 黒田睦美

